



6月1日は牛乳の日、6月は牛乳月間です。これは、2001年に国連食糧農業機関（FAO）が牛乳への関心を高め、酪農・乳業の仕事を多くの方に知ってもらうことを目的に、6月1日を「世界牛乳の日（World Milk Day）」と定めたことに由来しています。

また最近では、NHK連続テレビ小説「なつぞら」のヒロインが北海道十勝を舞台に、牛飼いのすばらしさを伝えているので、以前よりも牛乳についての理解はかなり広まったと感じます。

そして、岩手県は、乳用牛の頭数が全国3位（平成25年）を誇る酪農県でもあります。ご存知のとおり、町の名前を商品名にするぐらい、本県においては酪農はなじみ深いものです。

最近では、「山地酪農」（やまちらくのう）をもとにしたノンフィクションの本が出版されたり、ドキュメンタリー映画が上映されたりして、注目を集めていますよね。

第2回 児童文芸ノンフィクション文学賞を受賞した『しあわせの牛乳』ポプラ社 著:佐藤 慧 写真:安田菜津紀は、その酪農を題材とした本で小学生向けの親しみやすい文章で書かれており、一気に読み進めることができます。

このお話の舞台は、岩泉町にある「なかほら牧場」。牛が一年を通して山で放牧されている日本でもめずらしい牧場です。牛たちはノシバという自然の草を食べ、山で糞をし、その糞を栄養にして草が育つという環境にあります。主人公は、牧場主である中洞正（なかほら ただし）氏で牛と山と人がともに生きる「なかほら牧場」を作り上げるまでの物語が綴られているものです。

作品の中で、山地酪農を提唱した植物学者の猶原恭璽（なおはら きょうじ）氏の言葉に深く考えさせられる場面があります。「自分のことだけを考えるのではなく、自分を生かしてくれる自然そのものことを考えなければいけない。たとえ自分が死んだ後でも、千年先に豊かな自然を残せるような、そんな酪農をめざしなさい」と。

また、田野畑村で山地酪農を営む、吉塚公雄氏と家族の24年間の歩みがドキュメンタリー映画「山懐に抱かれて」【平成30年度文化庁芸術祭賞テレビ・ドキュメンタリー部門優秀賞】として、県内各地で上映中です。興味のある方は公式HP（<http://www.tvi.jp/yamafutokoro/>）で検索してみてもいいでしょうか？

私は、この2つの作品を通じて、自然の「命をいただく」ことや「自然との共存」について改めて見つめ直す機会にしたいと思いました。【Y】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」

>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索